

平成 23 年度 第 1 回遠江国分寺跡整備委員会 議事要録

1. 日 時 平成 23 年 12 月 7 日 (水) 発掘現場視察 13:30 ~ 13:50 (専門委員を除く)
会議 14:00 ~ 16:15
2. 会議場所 磐田市役所西庁舎 301・302 会議室
3. 出席者 整備委員：9 名
助 言：静岡県教育委員会文化財保護課職員 1 名
事務局：教育長、教育委員会事務局長、文化財課職員 4 名
傍聴者：なし

4. 会議要旨

- (1) 開会
- (2) 委嘱状交付
- (3) 磐田市教育長あいさつ
- (4) 整備委員および事務局紹介
- (5) 整備委員会委員長・副委員長選出
- (6) 整備委員会委員長あいさつ
- (7) 議事

【議事 1】今年度事業について (事務局報告)

特別史跡の追加指定

国の文化審議会で答申があった。来年 1 月か 2 月に正式告示の予定。

面積 586.54 m²。個人所有の宅地。

発掘調査

東回廊の発掘調査。年末まで継続。

木装基壇であったことや、幅 10m と複廊にふさわしい広い規模であること、火災にあったことなどが判明。

予定していた南築地については来年度に行う。

18 日に一般市民向けに現地説明会を開催する予定。

その他

社会科副読本を印刷し、来年 4 月の新中学 1 年生に配布する予定。

【議事 2】再整備の内容について

七重塔復元の課題

事務局 正確な復元設計図が描けない、建築基準法をクリアし、遺構を破壊せずに、安全性を確保できる建築方法がない、などの点から復元は難しい。

委員 (審議機関の構成についての質問に対して)文化審議会 - 文化財分科会 - 第3専門調査会 - 復元検討委員会 という系列で審議を行うことになる。

委員 たとえ課題がクリアされたとしても、塔跡には立派な心礎があり、これを覆って(見せないようにして)建物を復元するのは不適當なのではないかという議論もある。

委員 遺跡全体としてどういう整備、復元をしていくのかというビジョンを描くことが大切である。

委員 全国の国分寺跡の類例...全国 60 数例の自治体にあり、半分以上は史跡指定を受けている。整備についてはそれぞれ悩んでいる。平成の初めからこうした事業が開始された。上総国分尼寺(市原市)のように早い時期に建物の復元整備が行われたものは、今後の維持管理が問題になってくるだろう。

委員 塔の再建が難しいという話であるが、NPO法人などが塔の再建をうたい、寄付を募ることについて問題がある。

事務局 考える会の代表や自治会の代表も委員に入っており、ここでの話をそれぞれの団体に伝えてくれるとありがたい。要請があれば市としても説明していきたい。

委員 文化庁の予算にも限りがある。補助金が確実に半分出るとは限らない。市民の理解、協力は必須。熊本・鞠智城例(総事業費 50~60 億円)、岩国・錦帯橋例(総事業費 26 億円のうち 20 億円以上が市民の寄付)。

遺構整備・復元の検討

事務局 「史跡等及び埋蔵文化財公開活用事業」の要綱に書かれている 13 項目(歴史的建造物の復元、ガイダンス施設の建設など)について説明。

事務局 これまでの建物跡についての成果を説明。歴史的建造物については塔、金堂、講堂などは発掘調査の成果から困難。復元するとすれば、築地堀・門などが考えられるが、今後の調査の状況による。

委員 その要綱は文化庁の指針は大きく外れたものにならないようにするためのもの。ちゃんとした計画なら要件は満たすはず。それに縛られずに国分寺をどうしていくかを検討していくことが必要で、議論の仕方が違う。

委員 かなりしっかりした基本構想がある。これを下地にし、事務局サイドで素案を提示し、それをたたき台として議論を進めていく。

事務局 市の状況からいくと、基本計画の策定はもう少し先延ばしにしたい。

県 先延ばしはいいが、報告書の作成を含めた年次計画の作成が必要。補助事業を中断することはできないので、発掘調査と整備事業がスムーズに移行するようにしないといけない。

委員 自由な発想で文化庁に提案していく。思い切ってなるべく金をかけない方法を模索していくというのも方法ではないか。

委員 遠江国分寺の特性を活かした整備方法を検討すべきではないか。